



# 菊の香漂う越前の国府 武生

越前市京町、蓬萊町など

野口雨情が「二万石でも武生は城下」と謡った武生は、「大化の改新」の頃から約1300年近くも越前国府が置かれた歴史漂うまちだ。旧所名跡も多く、300近くの寺社が鎮座するという。



寺町通りの町並み



北陸道沿いの町並み

慶長6年(1601)、本多富正は、福井藩主結城秀康より3万7千余石を拝領し府中城主となると、戦乱により荒廃した町の中心に北陸道を通し、街道沿いに町屋、東に武家屋敷、西に寺社を配して、城下町を整備するなど現在の越前市の基礎を築きました。

その面影は今も残り、寺町通りと呼ばれる京町界隈には、由緒ある神社仏閣や、昔ながらの町屋が数多く点在し、落ち着いた風情を感じさせてくれます。



蔵の辻 吉の市 (3~12月の毎月第1日曜日開催) ①



タンス町通り 屋台まつり「昭和の花嫁行列」 ②



たけふ菊人形「菊人形館」 ③

白壁の蔵が立ち並ぶ「蔵の辻」と呼ばれる一角は、大正から昭和初期に建てられた店舗や蔵を再生したものです。毎月第1日曜にはフリーマーケットの「吉の市」、第3日曜には骨董市の「参の市」が開催され、多くの客でにぎわいます。

北陸道沿いには刃物を始めとする卸問屋や商店などの伝統的な建物が今でも数多く残っています。

北陸道から程近くにあるタンス町通りでは、幕末から明治初期にかけて多くの指物師が活躍しました。和洋家具や建具商などが軒を並べる通りには、当時のタンス町の特徴を残した店が残っています。

毎年10月上旬から11月上旬にかけて、北陸の秋の風物詩「たけふ菊人形」が武生中央公園において開催されます。大菊、小菊、懸崖、盆栽菊など10,000鉢におよぶ菊花が咲き誇り、菊の香に包まれます。



写真①~③は越前市提供